

Book Review

スウェーデンの歯科衛生士から学ぶ！ 歯科衛生士のためのベーシック ペリオ講座＋インプラント

加藤 典 著，弘岡秀明 監修

● ● ●

Reviewer

大月基弘 Motohiro Otsuki

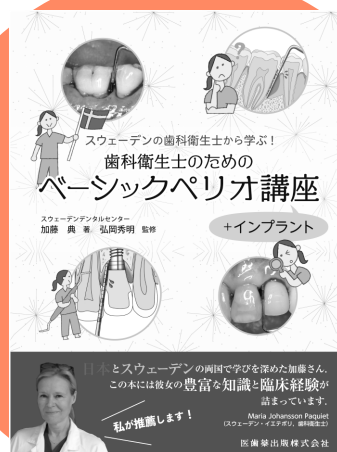
(大阪府・DUO specialists dental clinic)

A4 判変，168 頁

カラー

定価（本体 5,200 円＋税）

医歯薬出版刊



スウェーデンペリオを实践されている大先輩である弘岡秀明先生，そして，弘岡先生の医院に勤務されている歯科衛生士の加藤 典先生の本である。

デザインは清潔感にあふれており，青や黄色を軸とした北欧調の色使いやかわいいイラストが特徴となっている。パラパラとページをめくると，多くの写真や図を使用したわかりやすい解説が全編にわたり施されている。どうやら一気に読めそうだ。書齋に腰掛け，コーヒーを片手に最初から最後まで一気に楽しく読み終えた。

まず，この本から何を学べるかを述べてみたい。とことん基本に忠実で，無駄を省いたスウェーディッシュアプローチが具体的に詳細に記されている。このあたりは加藤先生自身がスウェーデンに何度も足を運び，現場で臨床を学ばれたご経験が生きており，非常にわかりやすい。新しい気づきがあれば明日から使える知識が満載である。

文章は平易で，エビデンスに偏りすぎず，歯科衛生士向けの本としてバランスが良いように感じる。クリニックで歯周病やインプラント周囲疾

患に立ち向かっている歯科衛生士にとって，過不足のない内容となっており，一通りの知識が散りばめられている。

個人的に面白いと思った部分は，全編に時折登場するスウェーデンの歯科衛生士や歯科医師である。彼らの生の言葉は，キラキラと新鮮で，臨床に一所懸命に取り組んでいる医療人にはハッとさせられたり，深く心に刺さったりするはずであり，本書をさらに魅力的なものにしている。また“Clinical point”としてまとめている部分は要チェックである。この部分は多くの示唆に富んでおり，隠されたエビデンスの裏付けがあるのである。さっと読まずに二度読みし，深く味わってほしい部分である。

最小限の介入でいかに最大限の効果を得られるかにこだわるスウェーディッシュペリオらしさを感じた記述として，たとえば“キュレットは必要最小限に！”があげられるであろう。

どうしてもテクニックに走りすぎてしまう歯科衛生士のキュレットセットを見せようとして，まさにキュレットのデパートといった具合に，多種多様な

キュレットが組み込まれていることが少なからずある。先の記述は，一つの器具に習熟することで最小限の器具さえあれば十分な治療が施せることを示しており，私もこの考えには大賛成である。

好ましいポイントとして症例が多く提示されており，具体的に自分が困っているケースと比較することも可能である。また，インプラントの章では補綴装置の形態修正が必要な場合についても述べており，メインテナンスの姿勢が強く感じられた。

歯周組織が長期にわたり健康な状態を保つためには，やはりブラークコントロールが大切である。そこで，本書に提示されている長期症例を見ていただきたい。PMTCを行わずとも，歯も歯肉もピカピカである。本書は太い幹で支えられたペリオドントロジーの王道に支えられている。歯科衛生士だけに読んでもらうのはもったいない。歯科医師も一緒に輪読し，スウェーディッシュペリオの真髄を感じてほしい。